

送変電設備の拡充

北陸電力発足時の送電設備は、こう長が1,718km、最高使用電圧が77kVでした。その後、増加する電力需要に対応した電源開発の推進や系統の増強に伴い、送電設備の拡充を進め、こう長は昭和30年代に2,000 km、1992年（平成4）に3,000 kmに達しました。最高電圧は、1996年（平成8）に275 kVから500 kVに上昇され、現在に至っています。

北陸電力発足時の変電設備は、変電所96か所、認可出力822千kVA、設備容量1,006千kVAでした。その後の電力需要の伸長とともに認可出力も増加し、1981年（昭和56）3月には、認可出力、設備容量ともに1,000万kVA台となりました。その後も基幹系統500kV昇圧工事の影響で変電設備は大幅に増加し、2020年（令和2）の送配電部門の分社化時点で北陸電力の発電所に併設する箇所も含めて、認可出力32,336千kVA、設備容量32,378千kVAとなりました。

